

p.57 11 代入しても増えない 代入しても要素が増えない

p.70 2 図 3.7 図 3.5

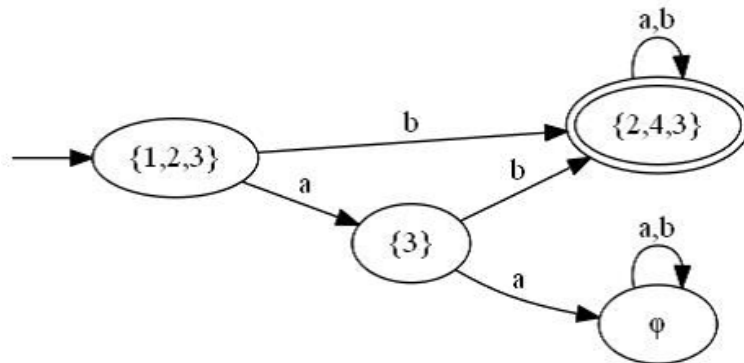
p.73 8 を部分グラフとして持たないことである。 を同相な部分グラフとして持たないことである。ここで、二つのグラフが同相であるというのは、辺の途中に頂点を挿入する操作あるいはその逆操作で一方から他方(と同形なグラフ)に移ることをいう。

p.79 7 線形連立方程式 $UA = U$ 線形連立方程式 $UP = U$

p.80 4 $L_G^* = L_G^m$ となる m $L_G^* = \bigcup_{m=1}^n L_G^m$ となる n

p.84 14 \mathcal{M} が認識 \mathcal{M} が受理あるいは認識

p.87 図 3.12 の左図 状態 4 を 2 重丸で囲む (受理状態にする)



p.87 図 3.12 の右図

p.96 5 必要な演算子 必要な被演算子

p.97 2 S のグラフ辺 S のグラフの辺

p.106 6 例 3.9 例 3.10

p.113 2 enumerable enumerable

p.140 4 $(2)m(x,0) = x$ $(2)m(x,0) = 0$

p.152 5,7 \mathcal{M}' M'

p.156 8 そのことの そのことを

p.158 9 の遷移を の遷移がみたす条件を